

Lesson 1

---

- 1 あなたはどれくらいの頻度で、人の名前を間違っ呼んだことがありますか。ひょっとしたら、男性の先生と面談をしていて、誤って先生を「父さん」と呼んだことがあったかもしれない。別の折には、新しいボーイフレンドを以前のボーイフレンドの名前で呼んだことがあるかもしれない。私たちはみんな時折こういう間違いをする。そして、それらの中には私たちを重大な問題に陥れるものもある。心理学者たちは最近になって、そのような誤りが、私たちが人についての情報をどのように記憶に留めるかということについて多くのことを教えてくれることを発見した。
- 2 一つの研究が、ある大きな大学の教員、職員、学生を対象に行われた。その人たちは自分たちがだれか他の人の名前と呼ばれたあらゆる場合のリストを作るように依頼された。この情報がもたらされた後、心理学者たちはその間違いをした人々、間違いをした人々と間違っ名前と呼ばれた人との関係、そして、間違いをした人々と間違っ名前を使われた人との関係に注目した。
- 3 心理学者たちは、私たちが2人の両方とも同じような関係にあるとき、2人の人間を混同しがちであることを発見した。たとえば、あなたは自分の男性の先生を「父さん」と呼んだことがあるかもしれない。なぜなら両者とも男性で指導的な立場にあるからである。
- 4 しかしながら、人は極めて異なっタイプの関係を入り組ませた間違いはめったにしない。たとえば、もしあなたが先生としている議論が、あなたに友達とした議論を思い出させなければ、あなたはおそらく自分の先生を友達の名前では呼ばないだろう。
- 5 これらの間違いは私たちに何を教えてくれるのか。社会的な関係というもののは個々の人々という角度からだけではなくて、関係のタイプという角度からも記憶の中で整理されるということを示唆している。だから、私たちがある人を別の人と間違える理由の一つは、ある友達についての情報が別の友達についての情報とあまりにも近づいて記憶に貯えられているということである。それ故、私たちは誤って間違っ情報、この場合、間違っ名前を思い起こすのである。